

## 名古屋で、新たな病院再編の計画が動き出す！

## 名古屋市内 2つの「赤十字病院」がセンター化（一体運営）！

## 将来的な経営統合を視野に！（7月1日）

☆「名古屋第一赤十字病院」ホームページ掲載内容（2021/6/15）

**2021年7月1日、名称が変わります。**

名古屋第一赤十字病院と名古屋第二赤十字病院は、日本赤十字社愛知医療センターへ。

両院が互いの強みや機能を活かすことで、さらなる高機能を赤十字病院として地域医療に貢献します。

- 名古屋第一赤十字病院
- 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（なかもらにつせき）
- 名古屋第二赤十字病院
- 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（やごとにつせき）

2021/6/16「中日新聞」15面記事 ↓

## 名古屋の2赤十字病院を一体運営 センター化、7月名称変更

2021年6月16日 05時00分（6月16日 11時00分更新）

名古屋市の二つの赤十字病院が、一体的な運営を行う「日本赤十字社愛知医療センター」化を進めており、七月一日から第一歩として病院名がそれぞれ変更になる。十五日に二病院の院長らが県公館を訪れ、大村秀章知事に報告した。

名称は名古屋第一赤十字病院（中村区、中村日赤）が「同センター名古屋第一病院」、名古屋第二赤十字病院（昭和区、八事日赤）は「同センター名古屋第二病院」となる。診療科や病床数、病院の通称などの変更はないという。

両病院は、高齢化社会の進行により医療の需要が高まると予測される中、センター化によって病院の垣根を越え、患者に必要な医療を効率的に提供することを狙う。すでに四月に人事交流を始めているほか、今後は将来的な経営の統合も視野に、電子カルテの統一、研修医や看護師の相互教育などを進めていく。

県公館で、佐藤公治・名古屋第二赤十字病院院長は「統合によって、より盤石な赤十字病院を目指す」とあいさつ。大村知事は「市民県民が親しんでいる、信頼の厚い病院。新しいスタートを期待している」と激励した。

名古屋市内にある2つの赤十字病院（第一赤十字病院・第二赤十字病院）が、7月1日に「日本赤十字社愛知医療センター」としてセンター化し、2病院を運営することが発表されました。将来構想では、「経営統合」も視野に検討されているということです。

6/16「中日新聞」で報道されましたが、両病院のHP等では、新聞記事内容以外の詳細内容は明らかにされていません。

両病院が経営統合

となれば、1,658床—職員3千5百人と言う大型医療センターとなります。この流れは、従来から注視している、県内4つの大学医学部付属病院の統合再編による大規模化にも通じるものであり、記事にある通り、人事交流や、カルテ統一、職員教育など、マンパワーを有効活用して行く事を第一義的にセンター化が進められています！ 今後、この様な同系列病院関係の再編統合や、今、国を挙げて進めている「地域医療連携推進法人」による連携強化が病院の生き残り策として次々と具体化される可能性があります！ 個々の医療機関の動向を引き続き注視して行く必要があります！

名称	所在地	病床数	職員数
名古屋第一赤十字病院	名古屋市中村区	852床	1689人（常勤）
名古屋第二赤十字病院	名古屋市昭和区	806床	1859人（常勤換算）
合計		1,658床	3,548人